

『軟膏・クリーム配合変化ハンドブック 第3版』訂正、並びに記載の変更について

ご購入いただきました『軟膏・クリーム配合変化ハンドブック 第3版』（2024年4月発行）におきまして、以下の訂正がございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。あわせて一部記載の変更につきましてもお知らせ申し上げます。

2024年12月

<訂正>

総論 10 ページ 図 1.6

(旧)
第1刷

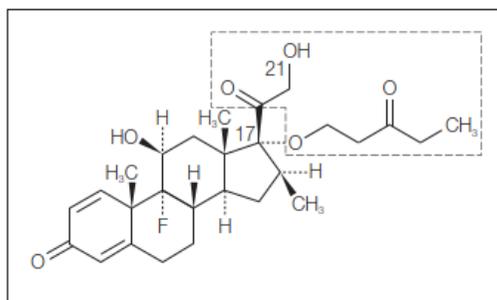


図 1.6 ベタメタゾン吉草酸エステルの構造式

⇒

(新)
第2刷反映

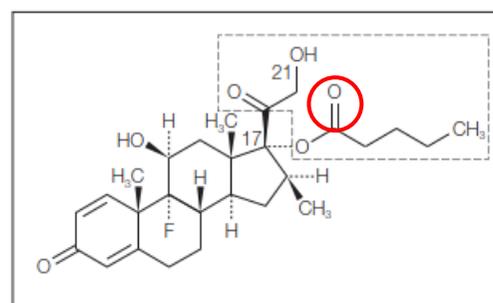


図 1.6 ベタメタゾン吉草酸エステルの構造式

152～153 ページ 薬剤 A：クロベタゾールプロピオン酸エステル軟膏 0.05% 「MYK」

(旧) 第 1 刷

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
ヘパリン類似物質油性 クリーム「日医工」	1 : 1	軟膏版	○	○	×	分離	未測定 遮光 8W : 分離	43
	1 : 3	陶製軟膏板・ メノウ乳鉢	○	○	○		25°C 遮光 4W : わずかにブリーディング。外観・性状の観察は 陶製軟膏板による混合, pH・含量の測定はメノウ乳鉢による混合	31



(新) 第 2 刷反映

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
ヘパリン類似物質油性 クリーム「日医工」	1 : 1	陶製軟膏板・ メノウ乳鉢	×	—	—	分離	25°C 遮光 2W : 分離。外観・性状の観察は陶製軟膏板による混 合, pH・含量の測定はメノウ乳鉢による混合	31
	1 : 3	陶製軟膏板・ メノウ乳鉢	○	○	○		25°C 遮光 4W : わずかにブリーディング。外観・性状の観察は 陶製軟膏板による混合, pH・含量の測定はメノウ乳鉢による混合	31

322～323 ページ 薬剤 A：ドボネックス軟膏 50 μg/g

(旧) 第 1 刷

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
ベタメタゾン酪酸エステル プロピオン酸エステル軟膏 「MYK」	1 : 1	軟膏版	×	×	×	含量低下	未測定 遮光	43



(新) 第 2 刷反映

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
ベタメタゾン酪酸エステル プロピオン酸エステル軟膏 「MYK」	1 : 1	軟膏版	○	○	○	(削除)	未測定 遮光	43

<追加情報>

422～423 ページ 薬剤 A：ヒルドイドソフト軟膏 0.3%

(旧) 第 1 刷

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
モイゼルト軟膏 0.3%	1 : 1	ピーカー	○	○	○			44
モイゼルト軟膏 1%	1 : 1	ピーカー	○	○	×	外観変化	8W : 小さなダマを認めた	44



(新) 第 2 刷反映

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
モイゼルト軟膏 0.3%	1 : 1	ピーカー	○	○	○		(共通) 企業回答は混合可であるが、モイゼルト軟膏 IF には「混合することは好ましくない」と記載されており混合すべきでない	44
モイゼルト軟膏 1%	1 : 1	ピーカー	○	○	×	外観変化	(1%) 8W : 小さなダマを認めた	44

薬剤 A モイゼルト軟膏 0.3% (大塚製薬)

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
ヒルドイドソフト軟膏	1:1	ビーカー	○	○	○			44

薬剤 A モイゼルト軟膏 1% (大塚製薬)

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
ヒルドイドソフト軟膏	1:1	ビーカー	○	○	×	外観変化	8W: 小さなダマを認めた	44



薬剤 A モイゼルト軟膏 0.3% (大塚製薬)

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
ヒルドイドソフト軟膏	1:1	ビーカー	○	○	○		モイゼルト軟膏 IF には「混合することは好ましくない」と記載されており混合すべきでない	44

薬剤 A モイゼルト軟膏 1% (大塚製薬)

薬剤 B	混合比	混合方法	2W	4W	8W	不可理由	備考	文献
ヒルドイドソフト軟膏	1:1	ビーカー	○	○	×	外観変化	8W: 小さなダマを認めた モイゼルト軟膏 IF には「混合することは好ましくない」と記載されており混合すべきでない	44